

平成18年度
(2006)
第46回大会

男子優勝 札幌日大 女子優勝 札幌清田

【 大会寸評 】

大会は小雨にたたられ、日程が2日も延び土曜日に閉会式という記録的な大会となった。今大会会場の東山プリンスホテルテニスコートは、ハードコートで小雨でもスリップしてしまう非常にデリケートなコートサーフェスであったことが災いした。当番校の岩内高校テニス部員や大会関係者が必死になって雑巾拭きを繰り返し、仕舞いにはその雑巾が破れるほど酷使した事でも大会の苦勞が伺える。

団体戦男子は、札幌藻岩高17年連続優勝を、札幌日大高が阻止して初優勝を遂げ、会場は歡喜に包まれた。また、女子は決勝戦が雨天順延となり2日がかりの決勝戦となり、大接戦の末、札幌清田高が2年ぶり19回目の優勝を遂げた。また、3位勢には、男子で深川西高（北空知）、女子では函館代表の函白百合高と市立函館高の2校が食い込み、地方もよく健闘していた。個人戦シングルスは、男子は山下将平（札幌藻岩）、女子は藤原舞（札幌清田）が優勝した。特に山下はまだ2年生であり、今後の活躍が期待される。他に全国大会に出場する選手は、男子が、工藤康史（札幌日大）、佐藤悠太（札幌日大）、田中紀行（札幌日大）、女子は赤石由佳（札幌日大）、赤石由衣（札幌日大）、千葉菜々美（札幌日大）の各選手である。個人戦ダブルスは、去年同様男子は札幌藻岩高どうしの決勝戦になり、菅野・本川組が制した。本川は2連覇となった。女子は、札幌清田高と札幌日大高の決勝戦となり、赤石・赤石組（札幌日大）が制した。他に全国大会に出場する男子は、山下・前田組（札幌藻岩）、女子は、藤原・佐藤組（札幌清田）の各選手である。以上、各選手の全国大会での活躍を期待したい。

【 全国大会 】

兵庫県神戸市で行われたインターハイは、連日晴天に恵まれ猛暑の中、予定どおり試合が消化された。ただし、連日の猛暑のため試合中に嘔吐する選手や、試合後けいれんをおこしたタンカで搬送されるといった場面を何度も見た。団体戦は北海道勢男女とも1回戦で敗退した。女子は関西の、男子は関東のそれぞれ強豪校で、厳しい戦いであった。男子個人戦シングルスでは、1年生の工藤康史（札幌日大）が3回戦に進出した。また、女子シングルスは藤原舞（札幌清田）が3回戦、千葉菜々美（札幌日大）が初戦を突破しそれぞれ健闘

した。個人戦ダブルスは、女子が初戦で全て敗退する厳しい結果となったが、男子の山下・前田組（札幌藻岩）は、猛暑の中ベスト16に進出し健闘した。今年も、大会全体を通して感じた事は、『猛暑』が勝敗を決定してしまっている点である。各選手の持つテニスの技術差より、熱中症他が原因で勝敗が決まっている現状に疑問を感じた。本当に、インターハイテニスはこのままで良いのか。全豪、全米オープンなど、猛暑の中での試合を避け、ナイトセッションを行っている。プロでさえ真昼の暑さを避けている現状で、未成年の子供達に対し、今のままで良いのか、大会の在り方を考えさせられた。特に、個人戦で1日8ゲームを4試合消化しなければならない試合予定は、苛酷すぎるという印象を受けた。今後大会運営の検討が必要になるのであろう。

（ 専門委員 ）

優勝のよろこび

男子 札幌日大高等学校

僕たち札幌日本大学高等学校男子テニス部は、今年のインターハイ北海道予選の団体戦で初優勝した。私たちににとって、団体戦優勝というのは、最も近くにある目標であり、それと同時に最も遠くに感じる目標でもあった。いつも準優勝、その上には必ず藻岩高校がいたからだ。多くの先輩方が団体戦での優勝を目指し、藻岩高校に勝つことを目標にしていた。そして、何よりも我妻先生に優勝を見せたいという気持ちが強かったと思う。その思いが受け継がれ、多くの先輩方や先生、現役の部員の思いが一つにまとまったのが、現在の札幌日本大学高等学校男子テニス部なのだ、胸を張って言えるのだ。

全道大会の決勝では、もの凄いプレッシャーを感じる中、選手は全員、思い切り戦う事が出来た。それは、選手を支え、応援してくれる仲間がいるからである。選手もその仲間のおかげで頑張れるということに心から感謝している。だからこそ、こんなにも全員で戦う事の出来るチームになれたのだ。そしてこの優勝にみんなが涙して喜びを分かち合えるのだと思う。このチームで優勝出来た事を心の底から嬉しく思うのだ。

最後に、我妻先生と支えてくれたすべての人に『ありがとうございました』の気持ちを伝えたい。

（ 札幌日大高校 主将 佐藤 悠太 ）

優勝のよろこび

女子 札幌清田高等学校

私達清田高校テニス部は6月20日から24日にかけて行われた全道高校テニス大会に出場し、2年ぶり19回目の優勝を果たすことができました。しかし、全道優勝までの道のりは、私たちににとってつらく厳しいものでした。この大会の前に行われた札幌支部大会では、ライバル校の日大高校に惜敗し、全道で優勝できるかは、不安な部分もたくさんありました。練習風景を見ていると、日大高校に負ける要素はほとんどなく、優勝するには、「試合で自分達の力を発揮できるか」というところにありました。試合で力を発揮するた

めに、私達はたくさんのトレーニングをし、試合が長引いても集中力を持続できるようにしました。また、3年生になり新しいチームになってから全道優勝をしたことがなく、3年生にとっては最後の団体戦を優勝で飾りたいという強い思いがありました。決勝戦では、雨のため2日も延期になったのにも関わらず、第2シングルの大事な場面で勝ちをおさめ、優勝することができました。勝ちが決まった瞬間は、部員全員が感動し、涙が出てきました。私達3年生にとってこの優勝は一生忘れることのない最高の思い出です。最後に、橋場先生、小松先生、たくさんの応援していただいた方々、本当にありがとうございました。これからの1・2年生は全国大会でさらにいい成績を残し、清田高校の伝統を守り続けていってほしいと願っています。

(札幌清田高校 主将 藤原 舞)

全国高校総体 (第96回全国高等学校庭球選手権大会) 兵庫

8月2日～8日

神戸総合運動公園テニスコート

しあわせの村テニスコート

男子	個人戦シングル	優勝	片山 翔 (柳川)
女子	個人戦シングル	優勝	的場 裕加 (長尾谷)